

令和7年度 第1回 奈良県公共事業評価監視委員会

〔事業再評価〕（前回評価：令和2年）

再評価実施理由：再評価実施後一定期間（5年間）が経過しているため

て ん り お う じ せ ん
主要地方道 天理王寺線
ち ょ う ら く
長楽工区

令和7年11月
奈良県県土マネジメント部
道路建設課

目 次

1. 事業全体図	p 2
2. 事業の概要	p 4
3. 前回評価時からの変更点	p 5
4. 事業費の見直し	p 6
5. 事業の必要性等に関する視点		
5-1. 事業を巡る社会経済情勢等の変化	p 7
5-2. 事業の必要性	p 8
5-3. 事業の投資効果	p 1 2
5-4. 事業の進捗状況および今後の見込み	p 1 3
6. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	..	p 1 4
7. 対応方針（案）	p 1 5

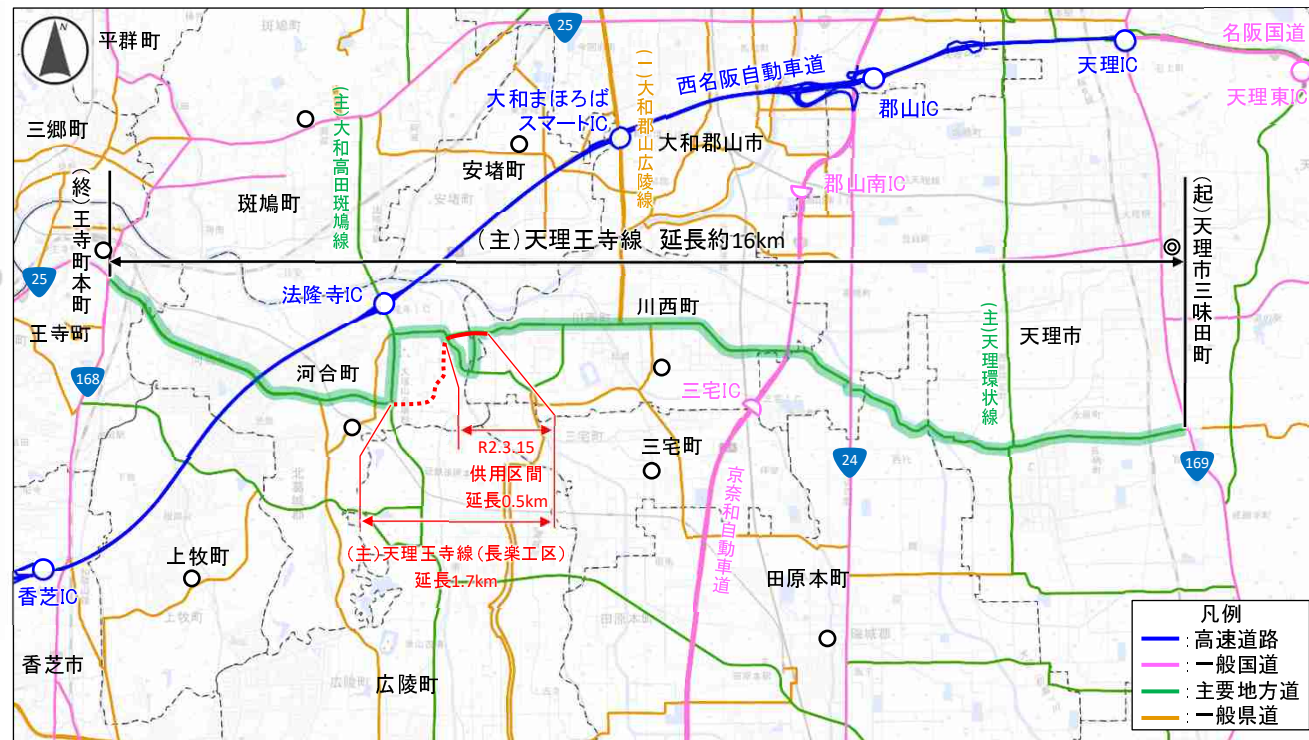
1. 事業全体図

- ・天理王寺線は、国道24号や京奈和自動車道、大和中央道、国道25号と接続する道路であり、日常生活や産業活動を支えるうえで欠くことのできない道路である。
- ・長楽工区は、天理王寺線の唯一の未改良区間を解消する延長1.7kmのバイパス道路である。
- ・本工区は奈良県道路整備基本計画(令和6年10月改定)において、骨格幹線道路ネットワークにおける路線の線的整備箇所として重点的な整備を推進する路線に位置づけられている。

広域図



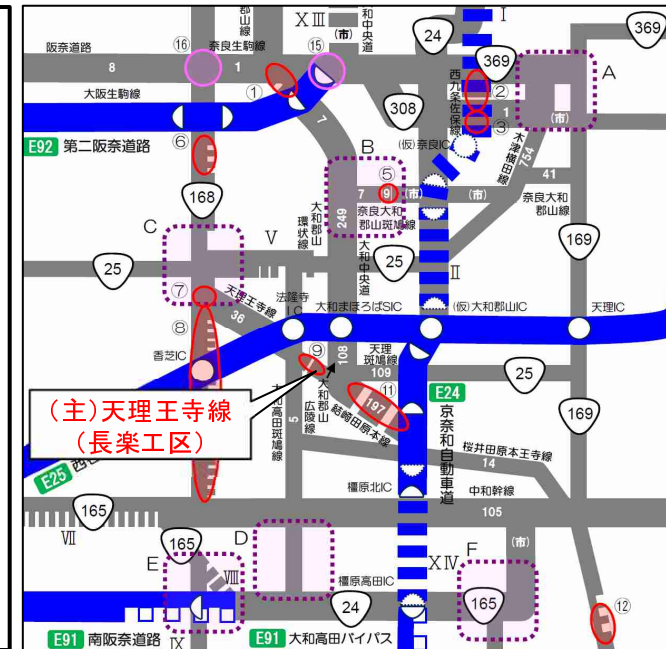
全体事業図



1. 事業全体図

関連計画

- ◆ 奈良県道路整備基本計画（令和6年10月改定）
骨格幹線道路ネットワークとして位置づけ、
重点的な整備を推進
- ◆ 川西町第3次総合計画後期基本計画（令和5年3月策定）
県内外の主要都市間との広域連携を図るための
広域連携軸に位置付けられている
- ◆ 河合町都市計画マスタープラン（平成21年4月改定）
周辺地域と河合町間の円滑な移動を受け持つ
地域幹線道路に位置付けられている



出典：奈良県道路整備基本計画（令和6年10月改定）

関連自治体の要望

平成20年3月21日

河合町長が早期事業化について要望

平成21年3月13日

河合町議会が「都市計画道路天理王寺線の延伸に関する意見書」を議決

令和6年5月14日

河合町、川西町の両町長が「天理王寺線整備促進等に関する要望書」を提出

⇒周辺工業団地、馬見丘陵公園など観光資源へのアクセス性の向上による経済効果の他、西和医療センターへの搬送時間の短縮、及び大規模災害時における救援、復興活動のための輸送路としての役割を担う、長楽工区の一日も早い開通を要望。

2. 事業の概要

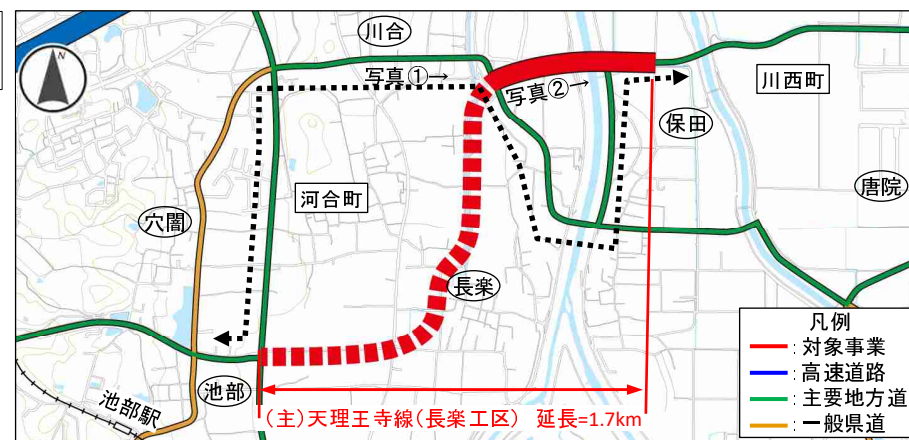
◆事業の目的

- ・ 骨格幹線道路ネットワークの形成
- ・ 地域活性化の支援
- ・ 交通安全性の向上
- ・ 救命救急活動の支援

◆事業の概要

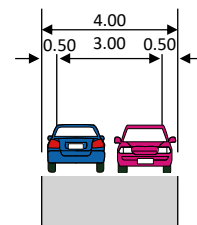
事業区間	北葛城郡河合町池部 ～磯城郡川西町保田
事業延長	1.7km
構造規格	第3種第2級
設計速度	50km/h
車線数	2車線
標準幅員	14.5m
全体事業費	約43億円
事業の経緯	昭和40年 都市計画決定
	平成22年 都市計画変更 (長楽工区追加)
	平成22年 事業化
	令和2年3月 部分供用(L=500m)

平面図

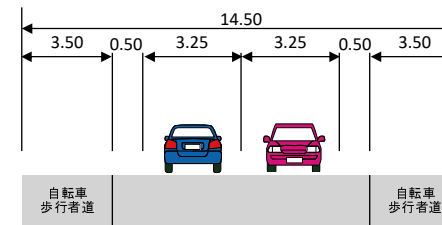


標準断面図

(整備前)



(整備後)



現況写真

写真① (未整備現道)



写真② (整備済み)



3. 前回評価時からの変更点

事業を巡る 社会経済情勢の変化

項目	前回評価 (R2)	今回評価 (R7)
人口 (河合町・川西町の合計値)	25,475人※1	23,792人※2
自動車保有台数 (河合町・川西町の合計値)	15,054台※1	14,860台※3
現況交通量	3,183台/日 (H27, 2015)	4,098台/日 (R3, 2021)
計画交通量	7,500台/日 (R12, 2030)	8,400台/日 (R22, 2040)

※1: 令和2年4月1日時点
 ※2: 令和7年4月1日時点
 ※3: 令和5年4月1日時点

事業の投資効果

事業費	約42億円	約43億円
費用便益比 (事業全体)	1.4	1.4
費用便益比 (残事業)	5.1	3.8

事業の進捗状況

整備済み延長	0.5km	0.5km
事業進捗率	約69%	約76%※4
用地進捗率	約70%	約77%※5

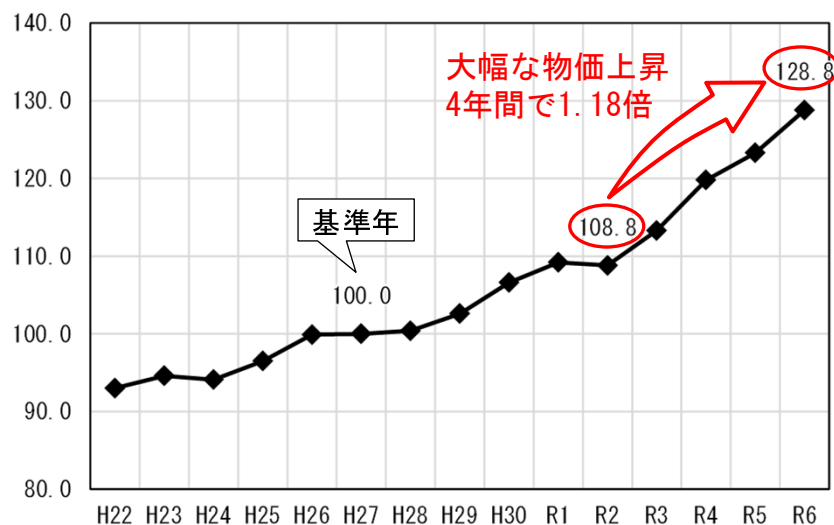
※4: 令和7年度末時点 費用ベース
 ※5: 令和7年7月末時点 面積ベース

4. 事業費の見直し

◆全体事業費の見直しについて

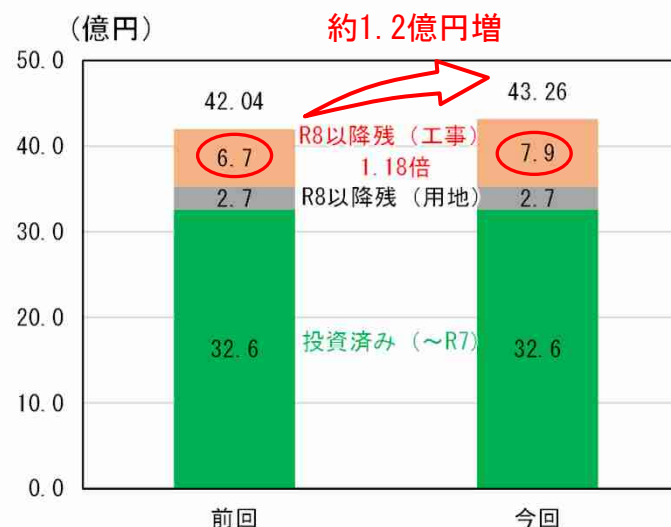
- ・ 前回再評価時点の全体事業費は約42億円を見込んでいた。
- ・ 今回再評価にあたり令和2年度から令和7年度までの事業費を精査した結果、大幅な物価上昇が確認された。
- ・ このため、令和8年度以降の残事業量に対して最新の単価を用いて全体事業費を精査した結果、資機材費及び労務費の高騰に伴い、約1.2億円の事業費増が生じた。
(約42億円⇒約43億円 (約2.9%増))

◆物価変動



出典:建設工事費デフレータ 道路総合 H27年基準
(国土交通省 令和7年5月30日 公表値)

◆全体事業費の精査結果



注) 上表は対比し易くするため、「前回」に積み上げている費用の中に、令和7年度までの投資済み費用を見込んでいます。

※【事務連絡】「道路事業における費用便益分析に用いる費用について（令和7年2月27日 道路局企画課評価室 課長補佐）」

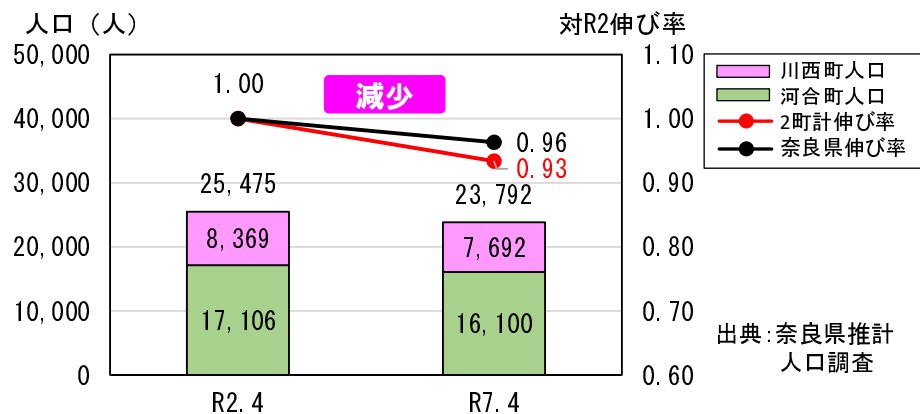
- ・ 事業費については評価時点における最新の資機材単価・労務単価を用いることを原則とする。
- ・ 将来の資機材単価・労務単価といった物価の変動は予測が困難であるため、評価時点以降の物価変動はないものとして評価する。

5. 事業の必要性等に関する視点

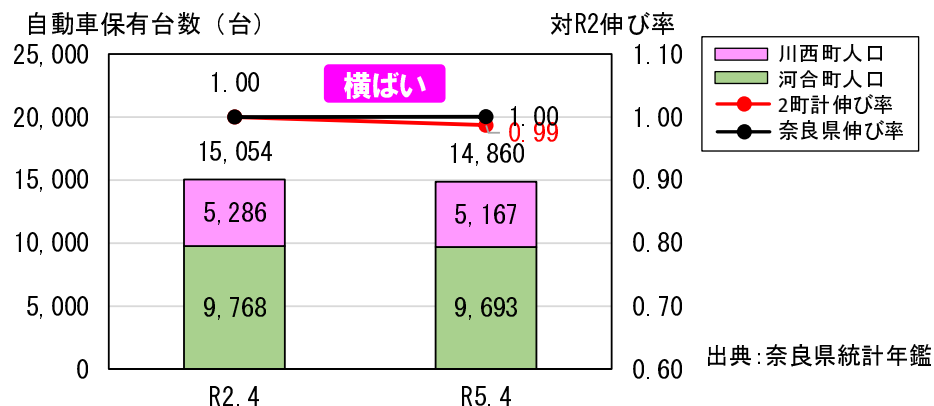
5-1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 河合町・川西町の人口は、減少傾向（対R2伸び率0.93）であるが、自動車保有台数は、横ばい（R27伸び率0.99）であり、需要の見込みや地域情勢の変化等大きな変化はない。
- 天理王寺線の交通量は増加傾向（対H27伸び率1.33）であり、令和2年度に天理王寺線長楽工区が一部供用開始されたことにより、交通の流れは天理王寺線に一部シフトしている。

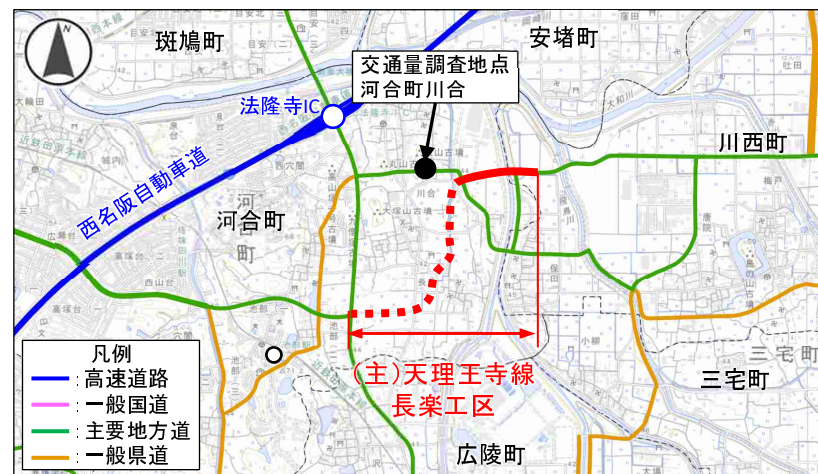
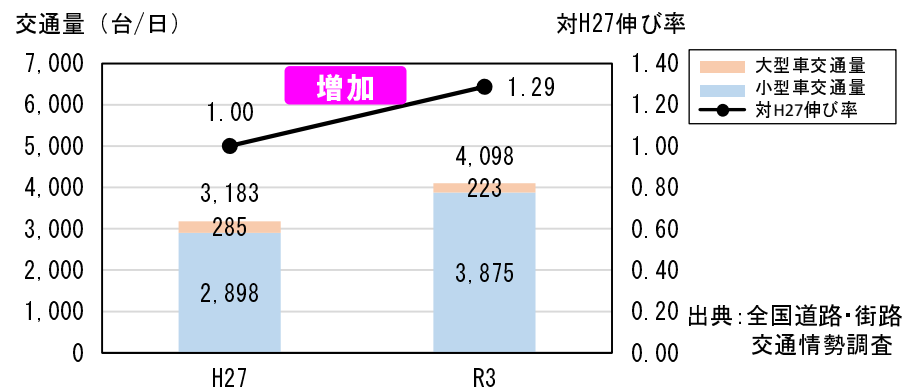
◆河合町・川西町の人口



◆河合町・川西町の自動車保有台数



◆天理王寺線の交通量

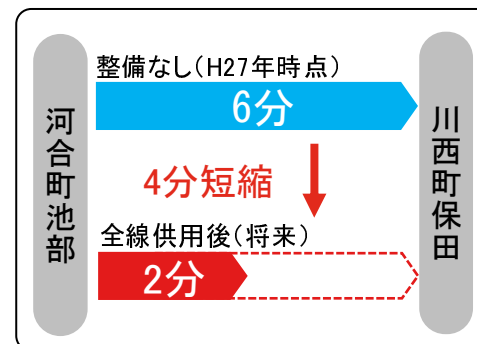
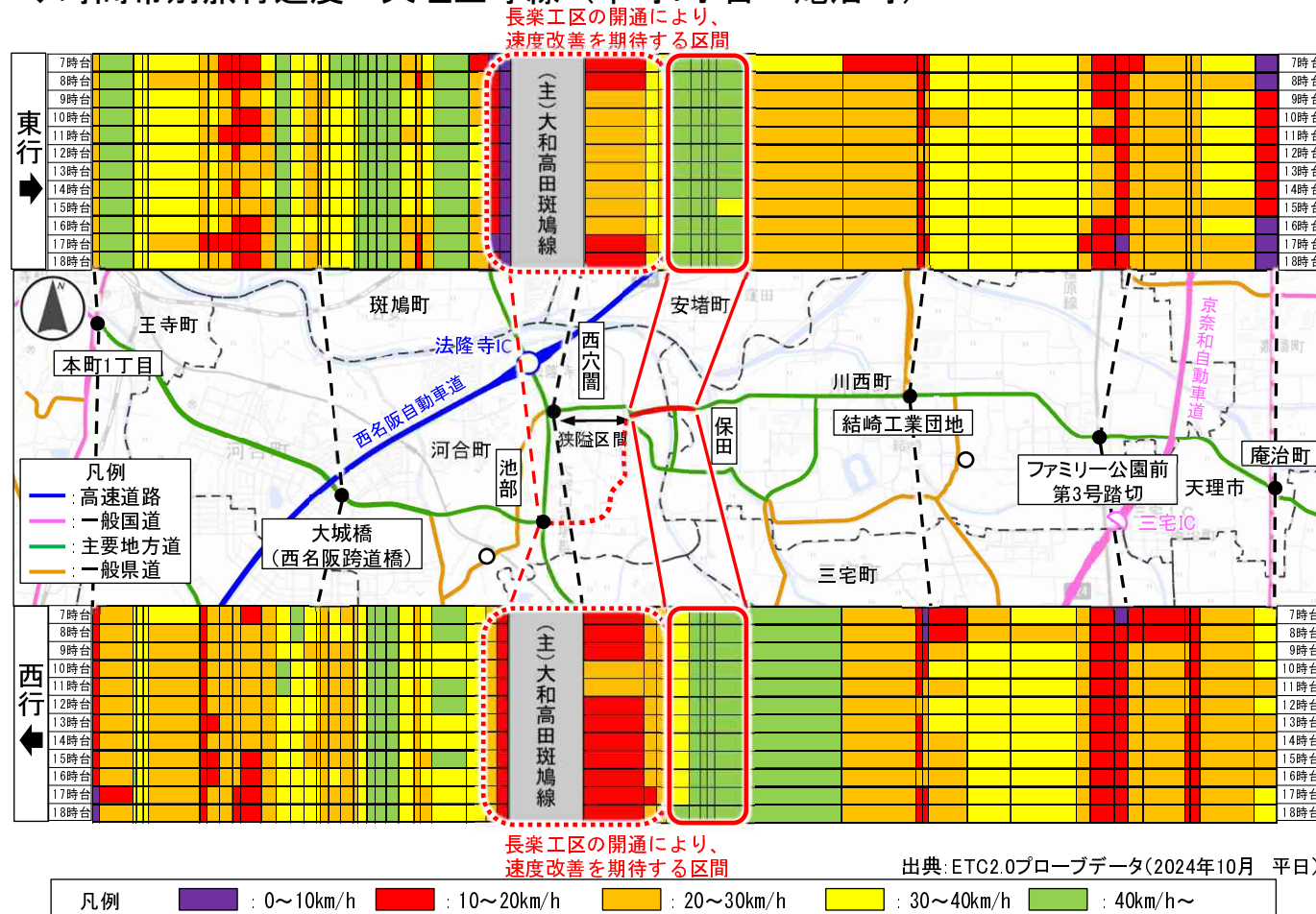


5. 事業の必要性等に関する視点

5-2) 事業の必要性【骨格幹線道路ネットワークの形成】

- 天理王寺線現道は周辺工場や住宅地からの通勤交通で朝夕の交通量が多く、狭隘区間では離合困難箇所も存在し、池部交差点では天理王寺線と大和高田斑鳩線との往来のために右左折する車両が集中し、速度低下が生じている。
- 本事業の整備により、東西方向の幹線道路ネットワークが形成され、移動時間の短縮や既存道路の渋滞緩和など、交通流の円滑化が期待される。

◆時間帯別旅行速度 天理王寺線（本町1丁目～庵治町）



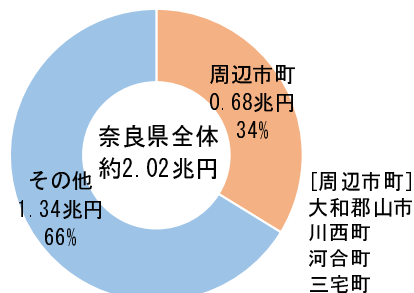
出典: 平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査
 令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査
 から算出

5. 事業の必要性等に関する視点

5-2) 事業の必要性【地域活性化の支援】

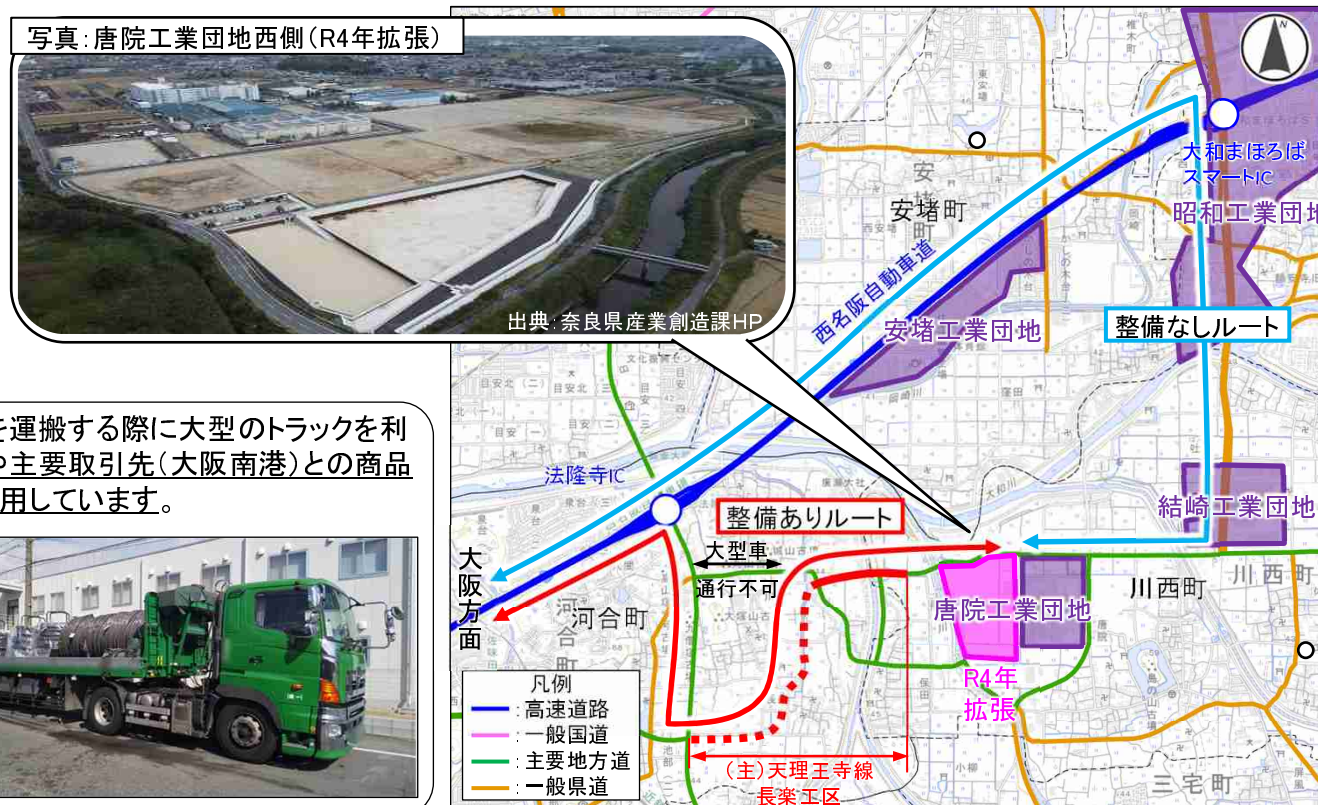
- 周辺市町（大和郡山市・川西町・河合町・三宅町）では工業団地が集積しており、製造品出荷額は、奈良県全体の約3割を占めている。
- 唐院工業団地では令和4年に工業用地の拡張事業が完了し、分譲面積の97%に企業誘致が完了している。
- 本事業の整備により、大型車のスムーズな通行が可能となり、物流の効率化や、企業立地の促進が期待される。

◆ 製造品出荷額 (R5年)



出典: 2024年 (R6年) 製造業事業所調査

◆ 工業団地位置図



◆ 地元企業からの声



鉄鋼業である弊社では材料を運搬する際に大型のトラックを利用しています。東大阪市方面や主要取引先(大阪南港)との商品輸送には西名阪自動車道を利用しています。

そこまでのアクセスは幅員が広く安全な道を優先し、大和まほろばスマートICへ迂回しているため、時間を要しています。天理王寺線(長楽工区)の整備により、安全で効率的な輸送が実現することを期待しています。

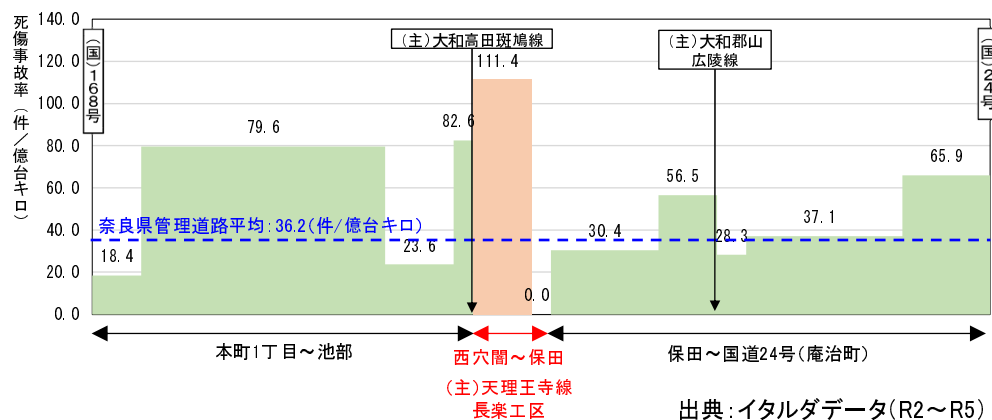


5. 事業の必要性等に関する視点

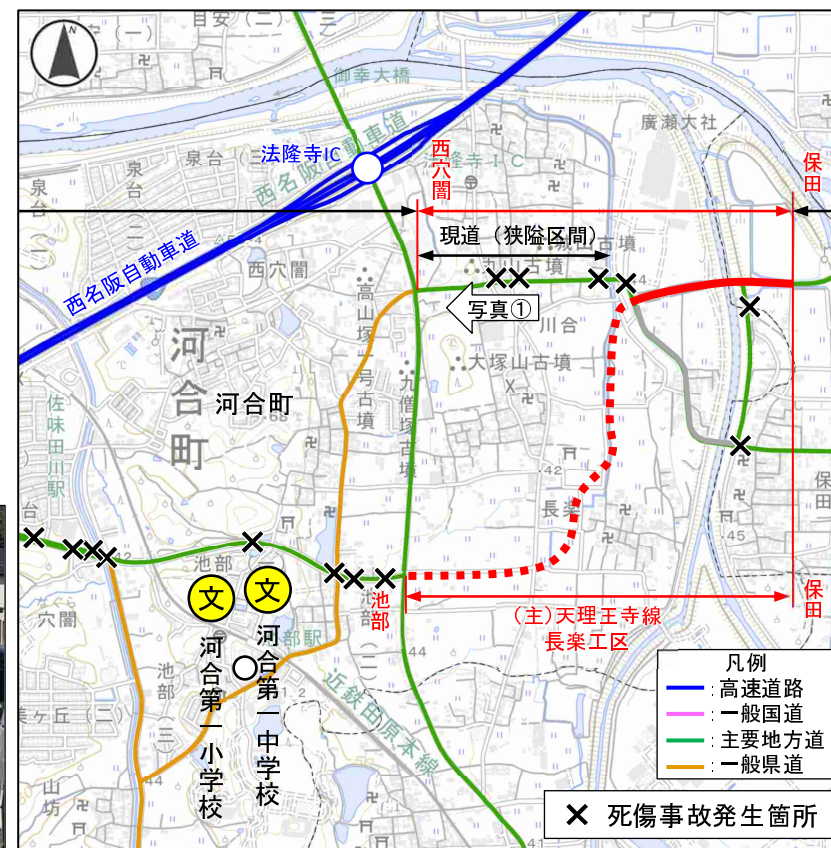
5-2) 事業の必要性【交通安全性の向上】

- 現道の通学路区間では、死傷事故率が県管理道路平均の約3.1倍となっており、通学児童・生徒にとって危険な箇所となっている。
- 本事業の整備により、現道を通過する交通量が減少し、交通安全性の向上が期待される。

◆天理王寺線のセンサス区間別死傷事故率



◆天理王寺線における事故発生地点図



◆河合第一中学校からの声



狭隘区間では、登校時は通勤時間と重なるため交通量が多く、進路のゆずり合いで速度を出す車もあり、危険な状況です。

河合町通学路安全対策推進協議会でも危険箇所として挙がっており、対策を進めていますが、天理王寺線(長楽工区)の整備により、通学路の車が減少し、抜本的に安全性が向上することを期待しています。



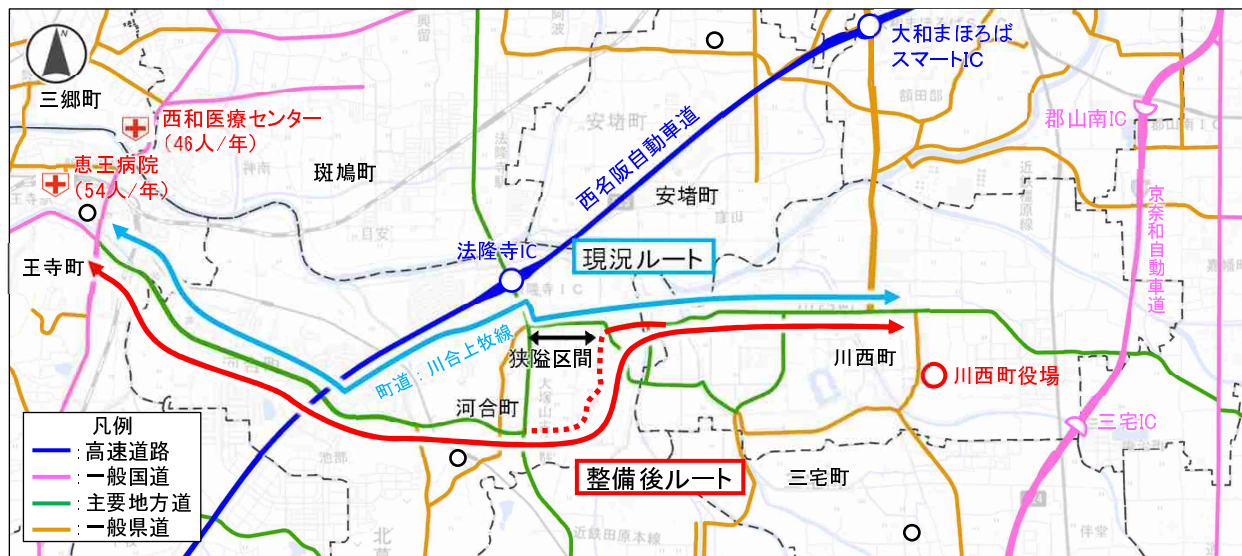
出典：イタルダデータ(R2～R5)

5. 事業の必要性等に関する視点

5-2) 事業の必要性【救命救急活動の支援】

- 川西町・三宅町から二次救急医療機関である西和医療センター及び恵王病院への搬送は100人/年（令和6年度）である。
- 救急搬送時は天理王寺線を通行することもあるが、すれ違い困難な区間を通行する際には、時間を要しており、加減速が患者の負担にもなっている。
- 本事業の整備により、救急搬送時の患者の負担軽減及び搬送時間短縮による救命率向上が期待される。

◆主な救急搬送先医療機関



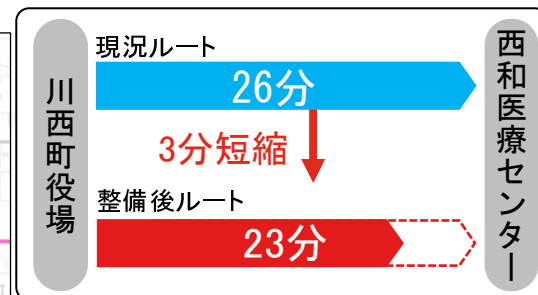
(内は令和6年1年間(1月～12月)の川西町・三宅町からの搬送人員実績)

◆磯城消防署からの声



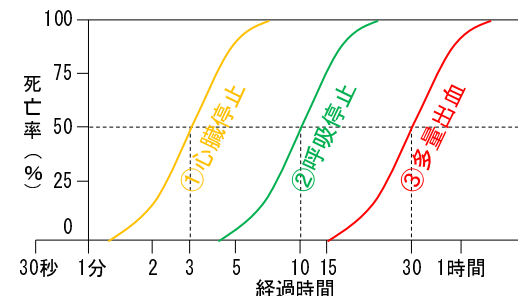
川西町・三宅町から西和医療センターや恵王病院に搬送する際には最短経路である天理王寺線を利用していますが、幅員の狭い区間では追い越しや対向車とのすれ違いが困難なため、時間を要しています。また、搬送時のブレーキや右左折は患者への負担となります。

天理王寺線(長楽工区)の整備により、右左折の少ないスムーズな搬送ルートが確立され、救急搬送時の患者の負担軽減や、搬送時間が短縮することを期待しています。



出典: 令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査から算出

◆時間経過と死亡率の関係



- ①心臓停止後約 3分で50%死亡
- ②呼吸停止後約10分で50%死亡
- ③多量出血後約30分で50%死亡

出典: M.Cara: 1981.「カーラーの曲線」一部改変

5. 事業の必要性等に関する視点

5-3) 事業の投資効果【費用便益分析】

■事業全体

便益(B)	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	総便益※1	費用便益比 (B/C)
	58.2億円	7.4億円	3.0億円	68.6億円	1.4
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	
	49.3億円		0.3億円	49.6億円	

■算出条件等

基準年	: 令和7年度
検討期間	: 50年間
現在価値算出のための社会的割引率	: 4%
交通量の推計時点	: 令和22年度
推計に用いた資料	: 平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査
適用した費用便益分析マニュアル	: 令和7年8月版
事業費(事業全体)	: 43.3億円(単純価値・税込み)
事業費(残事業)	: 10.3億円(単純価値・税込み)
維持管理費単価	: 1,121千円/km
作成主体	: 奈良県

■残事業 ※2

便益(B)	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	総便益※1	費用便益比 (B/C)
	27.1億円	2.2億円	1.5億円	30.8億円	3.8
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	
	7.9億円		0.2億円	8.1億円	

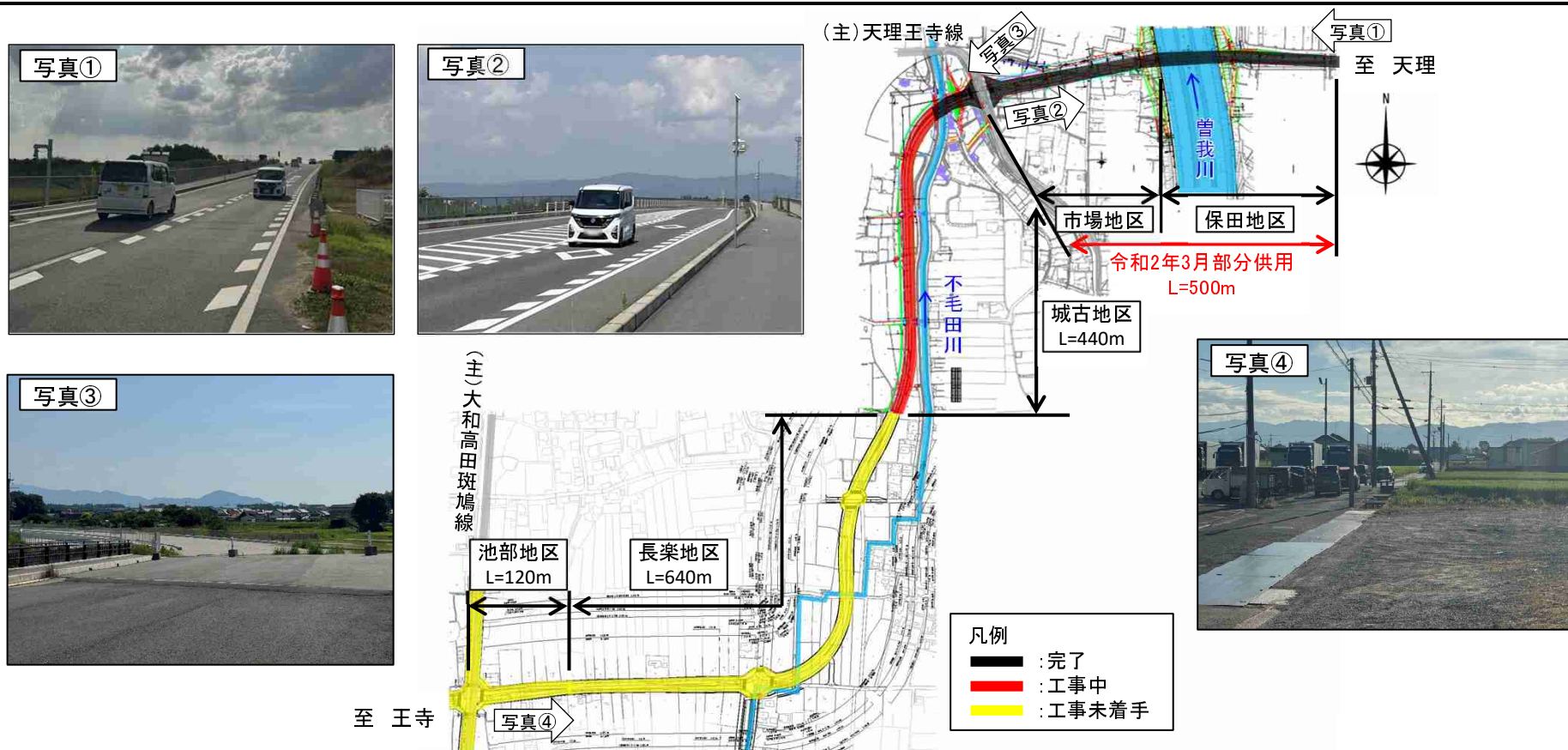
※1 便益・費用については、現在価値化した値である。

※2 残事業については、基準年の翌年度以降の残事業費及び翌年度以降の供用により発生する便益で算出している。

5. 事業の必要性等に関する視点

5-4) 事業の進捗状況および今後の見込み

- ・ 本事業に関係する全5地区のうち、川西町保田地区、河合町市場地区の約500m間について、令和2年3月に部分供用している。
- ・ 残る河合町内の3地区のうち、城古地区は平成30年度までに全ての用地買収を完了しており、工事を推進している。
- ・ 全体の用地進捗率は、約70%（R2再評価時）から約77%に進捗している。
- ・ 引き続き、地元への丁寧な説明を行い、事業に対するご理解・ご協力が得られるよう取り組み、早期完成に向けて事業を進める。



6. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

◆コスト縮減に配慮した施工

- ・他工区からの建設発生土(残土)を流用することにより、コスト縮減が期待される。
- ・今後、詳細設計を行っていくうえで、施工期間の短縮について、より一層のコスト縮減に努めながら、引き続き事業を推進する。

◆代替案立案等の可能性

現計画で平成22年に都市計画変更していることもあり、代替案の検討は行わない。

◆事業完了後の良好な公共サービス提供

供用開始時に、道路を利用される方々が安全で快適に利用していただけるよう、引き続き関係機関協議等を着実に実施する。

7. 対応方針（案）

1. 事業の必要性等に関する視点

- ◆東西方向の時間短縮が見込まれ、幹線道路ネットワークが形成される。
 - ◆物流効率化、企業立地の促進等が期待される。
 - ◆現道を通過する交通量が減少し、交通安全性の向上が期待される。
 - ◆救急搬送時の患者の負担軽減及び搬送時間短縮による救命率向上が期待される。
- ⇒ 当初事業採択時から必要性は変化していないことを確認

2. 事業進捗の見込みの視点

- ◆本事業に関係する全5地区のうち、2地区（約500mの区間）について部分供用済み。
 - ◆残る3地区のうち、城古地区（約440の区間）は用地買収を完了し、工事を推進。
 - ◆全体の用地進捗率は約77%であり、前回再評価時より7%進捗。
- ⇒本事業については、関連自治体や道路利用者から早期供用を期待するご意見を頂いていることもあり、引き続き早期完成に向けて事業を推進。

3. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ◆他工区からの建設発生土（残土）を流用することにより、コスト縮減が期待される。
- ◆現計画で平成22年に都市計画変更していることもあり、代替案の検討は行わない。

主要地方道 天理王寺線(長楽工区)は、事業の必要性等に関する視点、事業進捗の見込みの視点、コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点から継続が妥当と判断できる。引き続き事業を推進し、早期の事業完了を目指すことが適切である。



事業継続